

私立等に通う小学生・中学生とのタウンミーティング（要約）

テーマ：未来の松山のこと、私の住む地区のこと

令和8年5月31日（日曜日）

【市長】 皆さん、改めましてこんにちは。今日は日曜日の午後ですけれども、皆さんにはお集まりをいただきまして誠にありがとうございます。また引率の先生方、保護者の皆様方にも本当にお世話になりましたありがとうございます。さてこれから始めるタウンミーティングですけども、いただいたご意見を松山市のまちづくりに生かすために、私、平成22年に市長に就任をさせていただいたんですが、そのときから始めて、もう15年目ということになっています。で、タウンミーティングには3種類ありまして、まず地域別のタウンミーティング、松山市は旧の松山市、旧の北条市、旧の中島町が合併して、今の松山市になってるんですけど、全部で41地区に分かれるんですね。その地区ごとにやるのが、地域別のタウンミーティング。世代別のタウンミーティングっていうのをやってまして、松山市はこども計画っていうのを作っているんですけど、そのときには小学生、中学生に参加してもらったのタウンミーティング。高校生ともやったことがあります。大学生、専門学校生とやったこともあります。子育て世代の方ともやったことがあります。働き盛りの方々に集まっていたいでやったこともあります。おじいちゃん、おばあちゃんたちとやったこともあります。これが世代別のタウンミーティング。職業別のタウンミーティングは、例えば、商店街で働いている方々ですとか、農業の方々ですとか、またあのコロナで経済が大変影響を受けたときには、金融機関の方々、経済の実態をよく知っているの、金融機関の方々ともタウンミーティングをさせていただきました。ずっとやってきて、今日のタウンミーティングが150回目ということになります。今日は、私立や県立また国立の小学生、中学生とさせていただきますということになります。で、皆さんから今からご意見をいただくんですが、いただいたご意見、できるだけこの場でお答えをします。でも中には、財政的によく考えなければならぬとか、国や県とお話をしなければならぬ、そういうものがあるかと思えます。そういうものは一旦持ち帰らせていただいて、1カ月をめぐりに必ずお返事をする。聞きっぱなしにはしない、やりっぱなしにはしないというのが、松山市のタウンミーティングの特徴でございます。今日、皆さんと有意義な意見交換ができればと思いますので、まあ90分ですけど、緊張するとちょっとしんどくなりますから、あんまり緊張せずに、まあ、いい意見交換ができればと思います。よろしくお願ひします。

【①参加者】 松山市では多くの市民の方が防災士の資格を取得されており、私自身も中学1年生のときに家族全員で取得しました。しかし実際には、防災士の資格を持っていても継続的に活動している人は少ないように思えます。また、地域によって防災の取組みには大きな差があります。炊き出し訓練など実践的な訓練を行う地域がある一方で、ほとんど訓練が行われていない地域もあります。そのような状況では、地域ごとの防災力の差が生まれて

しまうことが心配です。そこで、松山市全体で均等な防災力を実現するために、各地域の防災活動の状況を把握し、防災士が実際に活躍できる仕組み作りや、全ての地域で一定水準の防災訓練が行われるような支援を強化していただきたいと考えています。

【市長】 はい。さすが中学生さん、専門的なご質問ありがとうございます。

【危機管理課長】 ご質問をいただきありがとうございます。防災士の皆さんは、松山市内で全ての地区にある自主防災組織の中心として頑張ってくれています。訓練や研修のほか、災害対応のマニュアルを作ったり、備蓄品を準備したりして、自分たちのまちは自分たちで守る。地域の要として活躍していただいています。松山市では、資格を取った後も防災の知識や技術を高める防災士のフォローアッププログラムを、令和6年度から始めました。地震のときに家具が倒れない方法や災害用トイレの使い方が分かってよかったなどの声もいただいています。自主防災組織の活動が盛んになるように、地域の消防署がサポートしています。また、活動に必要なものやお金も、松山市が支援をしています。毎年、地域の防災を頑張る皆さんで、地震や台風のときにどうやってみんなを守るかや、近くの会社と協力して助け合う方法などを話し合っています。若い人たちが参加しやすいようにして、松山の防災をもっともっと強くしていただければと思います。以上でございます。

【市長】 はい。まず安心してもらいたいと思うんですけども。今、課長さんの方から、全ての地区に防災組織、自主防災組織がありますって言ったんですけど、結構他の市だと、うち41地区って言ったでしょ。すべての地区に防災組織があるわけじゃないんですよっていうのがあるんですよ。で松山市は、すべての41地区に全部自主防災組織ができてるっていうのは、これはすごくプラスの条件だと思います。それと、確かに全国の自治体別で防災士、松山市一番多いんですけど、一番嫌なのは、「人だけ多いやん」って言われるのが嫌なんですよ。確かに人が多いと、私も防災士の1人ですけども、やっぱり避難所運営の仕方とかも分かっていますし、いざっていうときの救難もできるっていうのは、防災士です。やっぱりそれだけ人が多いと、意識が違うし、知識も違うから、人が多いっていうのはすごく意味のあることだと思うんです。すべての地区にいて、さっき申し上げたフォローアップ講座っていうのを専門的にやっていきますので、それ重ねていきたいと思っています。最後にしますけども、人数だけじゃなくて、質はこれからも大事にしたいので、私が防災士の資格取ったのは、学校の先生方と一緒に取ったんですよ。で、みんな、子宝っていうけど、子どものそばに防災士がいると、なお安全ではないですか。なので、小学校の先生、中学校の先生方に、防災士の資格取ってもらいたいって言ったんですよ。ほんなら先生たちからは、もうそのとおりだと思います。もう市長、その防災士の資格取ってもらいたいと、わかるけど、教育現場ものすごく忙しいんですよ。医療介護の現場ものすごく忙しいんですよ。いつ取ったらいいんですかって言われて、「大丈夫です。松山は防災士さん多いから、地方試験みたいな形で、松山で取れるけん、集中講義みたいな形で取れるけん、一緒に取りましようや」言うて、小学校・中学校、保育園、幼稚園の先生方にいっぱい防災士取ってもらってるっていうのは、松山の特徴なんです。もうおっしゃるとおり、これからも、質を大事に、防災士の育成、活

動していきたいと思いますので、また、若い防災士も大事なんで、またよかったらなっってください。お願いします。

【②参加者】 私は3歳からスイミングスクールに通い始め、小学3年生からは競泳に取り組んでいます。日頃から仲間と一緒にトレーニングに励んでおり、大会で自分やチームメイトが良い成績を出したときには大きな喜びとチームの一体感を感じます。また、長く続けるうちに体が丈夫になり、体調を崩すことが少なくなっており、楽しみながら健康的な生活を送るためにも、大人になっても続けていきたいと考えています。昨年、策定された第7次松山市総合計画では、2034年の未来像を、「大好きな松山で、自分らしくいられる」とし、さらに、いくつになっても好きな時に、学びやスポーツ、文化芸術活動を楽しめる環境を整えるということにしています。松山市では、市民がスポーツにチャレンジし、それを続けるためにどう取り組んでいるのか、教えてください。

【坂の上の雲まちづくり部まちづくり担当副部長】 はい失礼いたします。ご質問ありがとうございます。どうぞよろしくお願いいいたします。ご質問いただきましたスポーツにチャレンジできるような取組みについてお答えをさせていただきます。松山市では市民の皆さんがスポーツに親しみ、心と体、これの健康が実感できるまちづくりを計画的に進めています。松山市は、中央公園、坊っちゃんスタジアムがある中央公園、そしてコミュニティセンター、北条スポーツセンターなど15カ所の施設を管理して市内各所でスポーツを楽しむことができます。昨年度はすべての施設合わせて、およそ160万人の方々にご利用をいただきました。また、より身近なところでスポーツができるように松山市立の小学校、中学校の運動場や体育館を授業に支障のない範囲で夜間に使うことができます。サッカーやバレーボール、剣道や水軍太鼓など、こちらの方は年間およそ1万4,000人の方々にご利用をいただいています。さらに、愛媛マラソン、あるいは島の、中島で開催しておりますトライアスロン大会、これの開催も支援しております。多くの方々にスポーツを楽しんでいただく機会を作っております。これからも市民の皆さんが生涯を通してスポーツを楽しめるように、さまざま取組みを進めていきます。以上です。

【市長】 はい。私から補足で、水泳ですか。いいですね。全身運動なんでとってもいいと思います。今、小学生さんにはもう知らん人も多いかな。私の前の仕事はアナウンサーなんです。で、私の職業選択はスポーツなんです。身長184センチあって体大きかったんです。野球やってたんですけどあんまりうまくなくて、でも野球が大好き。野球に関わる仕事がしたいっていうんで、野球選手にはなれないからって、野球の実況や取材ができるアナウンサーになって、アナウンサー20年してました。なので、スポーツってすごく好きだし、うまくなかったけど、なので、スポーツをすることで楽しんでもらいたいし、スポーツを見ることで楽しんでもらいたいし、みんながみんなスポーツうまいわけじゃないやんか。なので、スポーツを見て楽しんでもらいたいし、支えるっていう立場でも楽しんでもらえるかなと思って「見る」「する」「支える」という形で市民の皆さんにスポーツを楽しんでもらいたい

たいと思っています。で、嬉しいのは、いつも愛媛マラソンが2月ぐらいにあるでしょう。12月ぐらいになったら北条のバイパスなんかみんな一生懸命走ってるんですね。あれ、健康につながる話だし、嬉しいなと思うし、みんながみんなフルマラソンできるわけではないんで、42キロって、ここ松山市役所から今治市役所までが42キロなんです、大体。まあ普通、走っていかんわね。僕一応フルマラソン7回走りましたが、なかなか大変です。なので、皆さんに歩くことをおすすめしてるんですよ。歩くことは健康につながるので、おじいちゃん、おばあちゃんでもできますよね。なので、歩くと、人と人がすれ違ったら、こんにちわって言って、人がつながっていくことにもつながるし、健康にもつながるので、いろんな形で、スポーツを楽しんでもらいたいと思います。日本一になってもらったら、こう、かがやき松山大賞とか渡せたりしますので、トップレベルの方も応援していきたいし、みんなのスポーツも応援していきたいと思います。そんなお答えでいいでしょうか。お願いします。はい。

【③参加者】 大街道と銀天街の取組みについて質問したいんですけど。理由は最近、大街道や銀天街がシャッター街になっていて、経済活動が停滞しているように感じて、シャッター街を解消する方法や、どのような取組みをしているのか、質問したいです。

【市民部もっとやさしい窓口担当副部長】 銀天街や大街道の活性化についてでいいですか。松山市はまず花園町通りの辺りですとか、市駅を中心に、活性化をどんどん進めていっています。そのつながりとして、松山の中心部についても、銀天街・大街道を歩いて渡っていく、歩いて周遊するっていうようなまちづくりを目指しています。その中で、銀天街や大街道についても、どんどん活性化の取組みを進めていっています。

【市長】 はい。私の方から補足しますね。私は大街道とか銀天街とかまつちかタウン、アーケードがあるところは、雨が降っても雨を気にせず歩けるでしょう。すごい風が吹いてても気にせず歩けるでしょ。寒くて雪が降ってるようなところも気にせず歩けるでしょう。だから私は、松山の宝だと思ってるんですね。で、僕松山南高って行って、銀天街に近いところの高校の卒業生なんですけど、特に思いがあって、昔の僕は、今58歳になったから、高校生のと違って言ったらもう43年前か。そのときに比べたら、ちょっと難しいこと言うと、ビジネスが変わってしまってるっていうのは、確かにある。昔は帽子屋さんがあって、うちの親戚も大街道で帽子屋さんしてたんだけどね。もう今辞めちゃってる。服屋さんがあったり、いろんなお店があったんだけど、今インターネットで注文ができて、結構早く届くじゃない。なので皆さんが個人のお店にあまり行かなくなったっていうのがあります。で、以前に比べると、どちらかというと、飲食店が大街道や銀天街に増えてきているかなっていう、そういう傾向はあります。ビジネスの形が変わってしまっているっていうところはあります。でも、最初に言ったように、やっぱり雨でも風でも雪でも関係なく歩いて、歩いてもらったら、さっき言ったように人がつながっていくことにもつながるし、ウインドウショッピングという言葉もあるようにもちろんお金を落としていくことにもつながるし、そういう

ところで宝だと思っているので、大事にしていきたいと思っています。で、多分銀天街は、大きな店舗の再開発ができれば、皆さん、またお店出されると思います。出してくださいよっていうふうにちょっとお願いはしていますし、皆さんちょっと様子見しているっていう状況はあるかと思います。できるだけ空き店舗は減らすように、松山市としても、チャレンジショップの支援をしたりとか、お店を出す方にその大規模改装、お店を出す方のお店の改装なんかも支援したりしてるので、できるだけ空き店舗を減らすように、これからもやっていきたいと思っています。松山の道後の商店街、ロープウェー商店街は、もう基本的に空き店舗がないんです。ですので、できるだけ大街道や銀天街、まつちかタウンも応援していきたいと思っています。よろしくお願いします。はい。

【④参加者】 松山の交通についてのお話です。私は毎日車で通学しているのですが、主に立花駅付近になると、車と自転車の距離が近くてとても危ないなって毎日思っています。4月から導入された青切符などありますし、何かその、松山特有のルールとか作っていただけたらなと思います。

【都市・交通計画課長】 ご質問いただきありがとうございます。松山市では、歩いている人や自転車、車を運転する人などみんなが安全に道路を使えて、安心して暮らせるまちづくりが大切だと考えています。皆さんは、青切符制度が導入されましたが、車とぶつかるような危ないときは、歩道を走ることができます。歩道がない場所では車道を走ることになりますが、狭い道路を広くするには土地を用意したり、建物を動かしたりするのでどうしても時間とお金がかかってしまいます。そのため、道路を広げるのが難しい場所には、皆様も見たことがあると思いますけど、青色の矢羽根型のマークを道路につけて自転車に注意するよう車を運転する人などにも知らせています。自転車などの交通ルールは、全国共通の法律、道路交通法というもので決められていまして、また一方通行とか通行止めなどの場所は、警察の方が決めています。危ないなと感じている場所、先ほど立花駅の付近という話も出ましたので、現場の状況を確認したり、警察に確認したりしますので、本日の会議が終わった後に、また自分の危ないなと思っている箇所がございましたら、教えていただけたらと思います。以上です。

【市長】 はい。すいません、僕ら今日1時間半のタウンミーティングですけど、すぐ帰るわけじゃないんで、ずっとおるので、課長の方に、地図ありますよね。ここが危ないと思うんですけど言ってください。確実に警察にはお話しますので。例えばね、みんな郡中線わかる。郡中線。伊予鉄の郡中線。あそこも結構道路が細くて、車と自転車がこう、結構距離が近いんよね。あそこ、県道だったと記憶してるんですけども、広くしようと思ったら、もう沿道、まあ線路があつて道路が1車線、1車線、2車線あつてお家、ですけど、広くしようと思ったら、ごめんなさい、ちょっとこうずれてくださいっていうことをしないとイケないですよ。言ったらもう、お家立ち退いてくださいって話になる。それになると、ものすごく交渉するのに時間もかかるでしょうし、お金もかかるでしょう。なので、そういうハ

ード整備が難しいところは、ソフト対策でできることもあるっていうことで、一例として、矢羽根のことを言いましたけども、重ねて、これ危ないな、青切符が導入されましたけど、危ないなと思うところは、こう通ることができるので、そこは周りの車に気をつけながら通っていただいたらと思います。遠慮なく、今日のみんなでここ危ないなと思うんですけど、いうところがあったら言ってください。確実に警察の方につなげますから。はい。言っていたらと思います。よろしくお願いします。

【⑤参加者】 僕たちが聞きたいのは、両親が子どもの頃は、コミセンや図書館で自主学習をすることができたと聞いたんですが。しかし今はどこも難しく、児童館なども自転車で行くには遠いところしかありません。なので、僕たち塾にも通ってないということもあり、少し悩んでいます。なので質問したいことは、放課後や学校が休みの日に自習をする場所がほしいのですが、どこかよい施設や方法はないでしょうか。

【教育委員会事務局学校教育担当次長】 ご意見、どうもありがとうございます。松山市は、皆さんが自習できる場所を、いろいろなところに作っております。市内の中心部にあります、松山市総合コミュニティセンター、先ほども言われてたんですけども、そちらでは、建物の1階に、誰でも自由に勉強や休憩ができるフリースペースを作っております。昨年度、机と椅子を36人分増やして56人が使えるようになりました。で、市内に8ヶ所ある、先ほどもありましたが児童館、そのほか、まつやま Re: 再来館、りっくるってご存知ですか。そちらにも、あと、松山市男女共同参画センター、コムズといいます、そちらや、青少年センターでも利用ができます。また、中央や三津浜、北条、中島のこの四つの図書館なんですけれども、予約せずに自習可能なスペースがあって、勉強ができます。市内に41ヶ所ある公民館では、今年度は29館で、夏休み中に自習室として開放をする予定です。これからも、松山市の施設をうまく使って、皆さんが自習できる場所を増やしていきたいと考えております。

【市長】 はい。検索の言葉言うけん。今、家どの辺なんかって聞かへんけん、入れてみて。検索のワードで「松山市 にこっと」ってひらがなで、「にこっと」って書くんですけど、「にこっと」というのは松山の子ども子育てサイトです。子ども子育ての情報をいっぱい集めたサイトがあるんですけど、これ「にこっと」っていうんです。「松山市 にこっと 自習室」って入れてもらったらワッと出てくるんで、自分の、皆さんのお近くの自習室に行ってみてください。で、使い勝手が悪い、使い勝手が悪かったら、市長へのメール制度ってあるから、市長へのわがまちメールってあるから送ってみてください。今結構言ったみたいに、コミセンもあるし、児童館もあるし、りっくるもあるし、コムズもあるし青少年センターもあるし、図書館もあるし、公民館もあるので、結構あるのかなと思います。自分の近くのところに行ってみて、ほんで使い勝手が悪かったらまた言ってみてください。お願いします。はい。あともう1問、いけるかな。

【⑥参加者】 高齢者と小中学校生の関わりについてです。松山市では、小中高生が高齢者とともに何かに取り組むというイベントが少ないと思うので、もう少し小中高生と高齢者が一緒に楽しめるイベントを増やすといいと思います。小中高生が老人ホームを訪ねたり、高齢者の方たちに、どこかの会場に集まったりしてもらったりして、そこでゲームや将棋、囲碁をしたり、地域のことや昔のことを教えてもらったりして、高齢者の方たちに楽しんでもらうと同時に、地域の文化を継承していけたらいいと思います。このことについてどう取り組んでいるのですか。

【市長】 はい、わかりました。松山市では子どもと高齢者がイベントに取り組むのが少ないんじゃないかなっていうご意見です。

【教育委員会事務局学校教育担当次長】 ご意見どうもありがとうございます。いろいろな人がつながり、お互いを支え合うまちにするため、松山市にはお年寄りが地域で楽しく生活できるように、身近なところで活動する生活支援コーディネーターがおります。若者と高齢の方が一緒に楽しめる機会を作っていて、小学生や中学生にも参加をしてもらっております。高浜中学校の1年生は、高齢者施設でトーンチャイムを演奏したり、一緒にゲームを楽しんだり、ご家族に手紙を届けたりしています。東中学校では、みんなが住む地域にとって役立つことを地域の高齢の方と考えたり、サイコロゲームで交流を深めたりしています。また、公民館でもふれあいを大切にすることを大事に取り組んでいまして、新田青雲中等教育学校の近くにある味生公民館、ご存知でしょうか。味生公民館では、コマやお手玉など昔遊びや醤油餅作りや囲碁など、伝統文化を伝える活動で高齢の方と小学生や中学生が交流を深めています。活動に参加したい方は、生活支援コーディネーターか公民館におつなぎしますので、本日の会の後、私にお声がけいただけたらと思います。よろしく願いいたします。

【市長】 はい。優しい気持ちを持っていてくれてありがたいなと思います。よく市民の人に言うんですけどね。今の松山とか今の日本、今の愛媛を作ってくれたのって、おじいちゃんおばあちゃんじゃないですか。で、今も洗濯だってすごい簡単やし。ね。いろんなものが昔に比べたらすごく簡単になってると思うけど、昔なんか洗濯なんかはこれ（洗濯板）やしね。もう水なんか冷たかったろうし。なので、やっぱりそういう苦労してきた人が、こう報われない社会っていかんですよね。なので、やっぱりおじいちゃんおばあちゃんたちは大事にしてあげたいと思います。ですので、町でね、おじいちゃんおばあちゃんを見かけたら、大事にしていただきたいと思いますけど、そういうふうなことを言ってもらったのはすごくありがたかったなと思います。松山市でもやっぱり若い世代と、おじいちゃん、おばあちゃんたちの交流ってすごく大事だと思ってます。三つほど今ご紹介しましたけども、これからもその気持ち、大事にしていきたいと思っておりますので、また皆さんもよろしく願います。

広報タイム①「家具を固定して命を守ろう」

【⑦参加者】 本日はこのような機会を設けていただきありがとうございます。今日は1人

の中学生として、そして松山で学ぶ、県外出身の生徒の代表として、自分なりの考えをお伝えできればと思います。よろしく願いいたします。早速ですが、私達は今回、松山市における水族館の建設を提案します。このたび、提案するにあたって、大洲市の長高水族館に取材いたしました。長高水族館は現在、長浜高校の高校生およそ100名と、顧問の先生のみで運営をなさっており、毎月多くの人々が訪れている水族館です。中でも最多を誇るのが、松山市内からの来場者とのことです。現在は、大洲市や県からの援助、募金、高校生の研究によって開発された世界唯一のクラゲ対策クリームの売り上げなどをもとに運営しています。そんな長高水族館は現在、コロナ禍を経て、第3土曜日の毎月1回2部制のあわせて最大400人の完全予約制となっています。その原因として、来場者の快適さや回転率を維持するためのキャパシティの限界や駐車場の不足などの問題があるそうです。そのため、学校による水族館の運営にも限界があります。そこで、私達は、松山市における水族館の建設を提案いたします。水族館は天候に左右されない観光施設であり、例えば、沿岸部につくることで、観光客の消費範囲の拡大も狙えます。ぜひとも松山市に大規模な水族館を建設していただきたいです。そのためには、愛媛松山の水族館建設を推進する会の復活が必要不可欠だと考えます。コロナ禍で活動を中止したと伺いましたが、その他にも、建設候補地の問題や街中における交通面の問題など、様々な課題があると伺いました。ぜひ、野志市長のリーダーシップのもと、同会と市や県が協力し合い、これらを解決していくことで、生態系豊かな瀬戸内海に面する愛媛松山の特色を生かした素敵な水族館ができるのではないのでしょうか。ぜひご検討いただければ幸いです。ありがとうございました。

【市長】 はいありがとうございます。私から少しだけ。ああ座ってください。県外から来てくれたのかな。2人とも。どこから。福岡。福岡と鹿児島から。ありがとうございます。福岡市長、高島さん仲良しです。鹿児島市長、下鶴さん仲良しです。はい。よく来てもらいました。ありがとうございます。

【企画戦略課長】 ご質問ありがとうございます。水族館の建設について、私の方からお答えをさせていただきます。おっしゃられたとおり、水族館の建設は平成28年、地元の経済団体などから要望がありまして、松山市では、事業化の可能性を調査したところ、民間がノウハウやネットワークを使って行うことが望ましいとの結論になりました。その後、松山市を含めた関係者で協議を続けましたが、新型コロナウイルスの流行や物価高、こういったことよって建設を目指していた団体から中止が発表されました。先ほどおっしゃられたとおりです。候補地としていたのは、愛媛県県民文化会館の南側の土地です。電停を挟んだ対面のところ。その場所は現在、愛媛県が国際会議やビジネスイベント、こちらで国内外から多くの人を訪れ、話し合いや交流の場となる拠点の整備を、その場所で検討しているということでした。なお、水族館の建設は新しい観光施設として魅力的ですが、市が新たにつくるということは、限られた予算の中、今のところは難しいと考えています。今後、民間企業の方から、水族館をつくりたい、こういった要望があれば、まずはお話をお伺いして、可能な限りの支援を考えていきたいと思っています。以上です。

【市長】 はい。今、松山市の仕事をさせていただいてますけど、家計とよく似たところがあって、家計のやりくりっていう言葉がありますけども、やっぱり、やりくり大事なんですよ。で、わかりやすく喋ると、今、よく少子高齢化って聞くでしょ。まず半分個ずつに分けて喋ると、これわかりやすいですけど、少子っていうことは、子どもの数は少なくなっているんで、働いて税金を納めてくれる、将来働いて税金を納めてくれる人の数はどんどん減っていった。で、高齢化、私も58歳で、いずれそうなりますけど、皆さんにお世話になる人たちはどんどん増えていってるんですよ。で、ここで数字のお話をすると、四国水族館って、香川県の宇多津だったかな、にできましたけども、あそこは、建設は香川県内を含む複数の企業が出資する四国水族館開発という民間が作りました。で、建設費は70億円。で、ここからが問題です。70億円で作ったら終わりではなくて、ずっと維持管理費っていうのがいるんですよ。維持管理費。これが四国水族館さんの場合は、年間5億から7億かかるんです。ということは、50年使おうと思ったら、250億とか350億かかるっていう話なんです。それは誰がみるのかって言ったら、皆さんの世代がみる。考えるでしょ。考えるでしょ。今の時代に、「ああいものつくったね。いいものできたね」っていうかもしれないけども、50年60年、それは使うんだから、その維持管理費は皆さんの世代が使う、皆さんの世代が出していくってことになるんです。ですから、「あのときの市長のときに、いらんもんづくりやがって、わしらその維持管理費で困るとるやないか」っていう状況は、それは避けなくちゃいけないと思ってます。ですから、民間さんが作るんだったら、できるだけ松山市は応援しますよっていうスタンスにならざるを得ないんですね。今の市民会館がね、もうちょっと使えたらって思ったんですけども、市民会館の配管って全部コンクリートの中に入ってしまったような状況なので、もう、ちょっと使えなくなるっていう状況が見えてきました。令和10年の3月閉館なので、新しいその市民会館に代わる、新しい文化施設は作らなくちゃいけないっていうふうに思ってます。はい。近々、私の気持ちを発表させていただきますが、そんな中で、やっぱり作ったら終わりじゃなくって、維持管理費がいるっていうのが、すごく判断の難しいところ。もちろん松山市の魅力は作らないといけないよ。松山市の魅力は作らないといけないけれども、その維持管理に皆さんの世代が汲々とする、困るっていうようなことにならないようにしないとイケないなと思って、日々仕事をしているところです。ですので、民間さんがやりたいって言ったら、できる限りバックアップしますので、今、そんな状況にあるということです。よろしくお願いします。でも安心して。松山駅周辺はいいところになるから安心してください。これがね、難しいのが、僕らの立場、途中段階は言えないんですよ。ちゃんと民間さんとお話はしてるんだけど、途中のことを言っちゃったら、民間企業って、社外秘っていう言葉があるじゃないですか。何で市長さん交渉中のことを言っちゃったんですかっていうことになって、破談になってしまってもいけないので、途中段階のことは言えないんですよ。ですので、我々はしっかりと交渉してます。発表できる段階になりましたら、ここがこういうふうになりますよ、この企業さんがやってくれますよっていうのは発表できますので。はい。いい場所になります。

【⑧参加者】 近所にあった、冬休みとか夏休みとかによく行ってたイヨテツスポーツセンターが閉館してしまったので、スケートとかプールがもう近くでできなくなるので、とても残念です。新しく松山市内にプールで泳いだり、スケートリンクで滑ったりできる場所を作ってほしいなと思います。

【市長】 はい、ありがとうございます。私がさっきあんなこと言っちゃったから、ちょっと言いにくくなったかもしれないね。ごめんね。

【坂の上の雲まちづくり部まちづくり担当副部長】 はい。ご質問ありがとうございます。イヨテツスポーツセンター、スケートリンクに代わる新しい施設を、というご質問に答えさせていただきます。イヨテツスポーツセンターさんは民間のスポーツ施設で、長い間たくさんの方に親しまれてきましたが、利用者が減ってきたこと、そして、施設そのものが古くなってきたことということで閉館を決めたというふうに聞いております。松山市には、ご存知だと思います、アクアパレットまつやま、そして、市内の総合コミュニティセンターに、1年間通して使える温水プールがあります。アクアパレットでは、夏休みになりますと流れるプールやウォータースライダーを楽しめます。新しいスケート施設を作るには、土地や建物の費用がかかります。作った後も、スケートリンクを維持するお金が必要になります。例えばですけれども、ちょっと調べますと、平成26年に作られた新潟県の新潟市のスケート場、これは作るのに、おおよそ22億円かかり、現在、その維持費は1年間で1億1千万円かかっているというふうに聞いております。先ほど、市長からもお話がありましたが、松山市がスケートリンクを作ると、税金を納める市民の皆さんにご負担をいただくようになりますので、慎重に考える必要があるというふうに思っております。まずは今ある市の施設を皆さんが大人になっても使えることができるように、大切に維持管理をしていきたいと思っております。以上です。

【市長】 はい。ごめんね。色よい返事ができなくて。さっきの話の補足になるんですけど、建物を建てちゃって、維持管理にいっぱいお金がかかるから、じゃあこの建物やめますってバンバンバンって壊すわけにいかないでしょう。そうすると、やっぱ50年とか60年とか使わないといけなくなるので、本当にその辺が難しいかなというように思っています。ちょっとさっきの補足で、駅周辺良くなりますよっていう話をしましたけども、お隣の高松市は新しい高松駅ができたのが2001年なんです。で、新しい駅ビルができたのが「高松オルネ」っていう名前なんですけど、新しい駅ビルができたのが2024年で、23年かかっているんです。で、やっぱりどうしても関わる人が多いと、どうしても時間かかるんですけど、23年経ったら私、今58歳なんで、81のおじいちゃんになっちゃうので、さすがにそこまでは、かけるつもりもないし、もう皆さんからいっぱい意見をいただいているので、最短でやりますから、23年もかかるとは思わないでください。最短でやりますから。今、盛んに交渉しているところです。

【⑨参加者】 私達は柑橘の栽培について市長にお伺いしたいことがあります。松山市は、温暖な気候に恵まれており、農業に適した土地と言えます。特に果樹栽培が盛んであり、紅まどんな、せとか、カラマンダリンは「まつやま農林水産ブランド」として認定し、消費拡大に取り組んでいると聞いています。しかし、今、地球温暖化、異常気象、有害鳥獣増加により、柑橘をこれまでと同様に育てて出荷することが難しくなっています。このことは、柑橘だけでなく、農業全てに該当すると思われます。松山市では、農家の直面する現状やニーズをどれだけ把握し、農業の収益を上げるために、どのような取組みをしているのか、松山市がモデルケースとなり、日本の農業の未来を変える取組みができるのではないかと考えています。この点についても市長と話をしたいです。

【市長】 はい。市長と話をしてほしいですって言われたら、私の方からお答えをします。はい、どうぞお座りください。結構いろいろ、松山、先駆的な取組みをしています。さっき言っていたように、12月の紅まどんなとか、1月のせとかとか、今、本当に全国で名前が売れるようになってきました。あんまり、値段が高くなりすぎるのもいけないんですけど、東京の千疋屋さんとか、フルーツパーラーの有名なことか行ったら、これぐらいの紅まどんなが1個2,000円とかする。安心して、地元やけん安く買えるけんね。運び賃もいらんし、倉庫賃もいらんけん。あんまり高くなりすぎてもどうかと思うんですけど、今、12月の紅まどんなとか1月のせとか、すごく高級柑橘なのは、皮が薄いので、すごく作りにくいんですよ。で、露地で作るんじゃなくて、ハウスで作ることが多いので、ハウスを作る場合に支援をしています。そういう取組みで、でまた、東京に大田市場っていう、日本一の野菜と果物の扱い量を誇る大田市場っていうところがあるんですけど、今まで私29回売りに行って、元アナウンサーだから、喋るのはね、得意とするところなので、納得してもらって、いい値段をつけてもらって、また、ハウスなんかの支援もして、生産量も増やすっていう取組み、農家の方が、収入が安定するような取組みをしてきました。あと、アボカド。アボカドはほとんどメキシコ産。で、メキシコから運んでくる時間かかるでしょ。でやっぱり地元だと、ギリギリまで完熟まで実らすことができるし、安全安心だよ。なので、そういう安全安心な松山産のアボカド、気象の変化もあるので、結構作るのが難しいところもあるんですけども、アボカド、全国でのアボカドサミットいうのを松山でやったりして、アボカドの生産は日本で維持できるようにいろいろと取り組んできました。あと、お米の生産が難しくなっているんで、暑さに強い品種を作っていただく場合に支援するっていうような取組みをしてきました。今ね、剪定するときのハサミもアシストが付いてて楽なやつとか、こういう一輪車もアシストが付いて楽に運べるやつとか、そういう新しい技術も出てきているので、そういうのも入れながら、農家の皆さんが、こう、希望を持ってずっと農業できるような、そういう取組みをこれからも続けていきたいと思っています。そんな答えでいいでしょうか。よろしくお願ひします。はい。

【⑩参加者】 僕自身も松山で過ごしてて、すごい楽しみなんですけど、松山駅周辺のこと

について聞きたいなと思います。まず、事実整理の方からさせていただくんですけども、まず2015年の基本構想では、車両基地跡に文化施設を建設する方向で取りまとめられていました。しかし、2024年の春になって突然、愛媛経済同友会の提言によって、それまでアリーナのアの字もなかった計画にアリーナ構想が突如として現れました。この、意見を、もちろん、その経済同友会というのは県内有数の企業の方の経験のある方等が集まりますので、もちろん意見を聞くことは一切悪いと思わないし、それをどんどん政策に反映してもらったらなと思うんですけども、正直個人的に疑問に思ったのが、それを鵜呑みにしてしまってるのはどうなのかなと思いました。その時の市民への説明というものもほとんどなされませんでしたし、議論も十分でないまま、計画は進みました。説明のないまま方向性が変わるの一体どうなのかな、というふうに個人的には当時思いました。おそらく当時の市民も、青野社長が発言した、撤退のときの感じで、面積が足りないんじゃないかと思ったり、別にアリーナはいらないんじゃないかっていう考えを持つ市民もいたのではないかと思います。そして結局、3月に周辺のプランが出されたと思えば、1ヶ月半でアリーナの話は消えてしまいました。で、先日の木曜日の検討会で決まったとか、方向性はまとまったかと思うんですけども、10年前と同じく文化施設を建設する方向で話を進める、いわば10年前の計画に戻る形になってしまいました。ここで一つ質問なんですけれども、何で2年前にアリーナという寄り道をする決断をしたのかっていうのを具体的に教えてほしいなと思います。よろしくをお願いします。

【市長】 はい。私の方からいきましょうか。はい。まず、今の話は何をもとにして喋ってますか。マスコミから言われることを鵜呑みにしてないか。何をもとにして喋ってる。今言ったことは。

【⑩参加者】 今の情報は基本的に県内の放送事業者複数社ありますので、それらを基に共通してる部分を抜き出したものから、内容はメインとして立てました。また、経済同友会のホームページとか、その他、市のホームページ等も参考にしながらこの情報を集めております。

【市長】 うん、わかりました。はい。自分で調べる姿勢を持っているのは素晴らしいことだと思います。放送局で20年仕事をしていたものとして、メディアリテラシーという言葉がありますけども、この情報は本当かなっていうのを自分で調べてみるっていうのはすごく大事なことだと思います。いろいろとホームページなどで調べているのはいいことかというふうに思います。じゃあちょっと、途中の、基本構想は変わってないんだよと、説明してもらっていいですか。

【交通拠点整備課長】 いろいろ調べていただいて、ご意見ありがとうございます。まず、松山駅周辺のまちづくりですが、これは初めから言いますと、鉄道高架、周辺の東西に分断されたまちを一体的にまちづくりを進めていく。そういったことで、愛媛県が施工する鉄道高架と周辺の区画整理によるまちづくり、これを松山市が担当して進めてまいりました。その際に、車両基地跡地、これももう既に新しい車両基地が伊予市、松前町の方に移ってますけ

ど、その跡地が生まれてきます。せっかくこれだけの大きな土地が生まれるなら、ぜひ有効活用していこうということで、平成 27 年に決めた基本構想、これは車両基地跡地の土地利用を、どのように有効利用するのがいいのか、それを決めたものなんですね。その結果として、この土地については、賑わいや楽しさで、また防災にも使っていこうと、そんなところを目指して基本構想をまず決めております。で、その後、経済同友会から提言がありました。これはまた一つのきっかけです。それ以外にも、国、スポーツ庁が進める、アリーナ、スタジアム構想、アリーナやスタジアムを生かしたまちづくりを進めていこうという国の動きだったり、それとか、全国、どんどんアリーナが建ってます。若者に魅力のある、そういう施設を作って、ぜひ松山、地方に人口を、人口減少に歯止めをかけようとなんな目的もあって、我々はアリーナ、それと、また同じように文化団体からも自分たちが使えるような専門的なホールを作ってほしいと、文化ホールを作ってほしいと、そういったお声が上がりましたので、その両方を目指していこうということで、検討を始めたものなんですよ。はい。少し、経緯としては。はい、よろしいでしょうか。

【市長】 はい。こう、一方的に大人が言わない方がいいと思うんで、どうぞ何かあったら言ってください。

ちょっと私の方から言おうか。元々私も放送局出身だけど、どうしてもニュースって、新聞もそうだけど、部分抽出になるんですよ。松山市としても一生懸命喋ってるんだけど、なかなか全て書いてくれるわけじゃないんです。で、どうしても記者さんの主観も入るしね。で、メディアって、やっぱり皆さんに見てほしいと思うから、対立構造を作りたがるんですよ。ですので、ちょっとあの、いかななものかなっていうふうに思ってます。ですので、私達は、当然議会のチェックも入るし、メディアのチェックも入るので、変なことをしてきたつもりは全くありません。私の手元に常に愛媛経済同友会からの提案書がありますけども、愛媛経済同友会の提案書プラス県内の、また松山市内の主要な企業のトップの方の 15 人ぐらいのご意見も添えてきたので、これは先ほど担当課長の方から申し上げた、賑わいだったり、交流だったり、防災であったり、こういうところは全く変わってないので、あの方向に切らせてもらった。でも、青野社長の方が、あの西では、ローコストアリーナはちょっと形状的にできないですねっていうことで、今に至っているっていうことです。そういうことをちょっとご説明したんですけども、そういうようなお答えでいいかな。はい。

広報タイム②「食品ロスを減らしましょう」

【⑪参加者】 松山市内で行われている地球温暖化対策についてです。2030 年までに目標達成を目指している SDGs について、2030 年までにあと約 4 年です。SDGs 中の 13 にある「気候変動に具体的な対策を」に注目しました。年々と気温が上がり続けており、日本の特徴の一つでもある四季を感じることも少なくなってきました。日本全体では、再生可能エネルギーの一つである太陽光発電が多く普及されています。ですが、県や市、それぞれが協力

しなければあまり変わらないのでは、と感じました。松山市はどのような対策が行っているのかが気になりました。教えていただければ幸いです。

【環境・ゼロカーボンシティ推進課長】 はい。ご質問ありがとうございます。松山市は、二酸化炭素などの温室効果ガスを減らし、環境に優しいまちを目指しています。再生可能エネルギーの利用を進めるため、太陽光と蓄電池のシステムの普及などに力を入れているところです。そこで、住宅用の太陽光パネルと蓄電池、これを同時につけるときの費用に、国と一緒に支援して、昨年度は95件を受け付けております。また、走る時に二酸化炭素を出さない車、いわゆる電気自動車などの購入にも、県と一緒に補助をしており、昨年度は159件、これまでにおおよそですけども、800件の申請を受け付けて、環境に優しいまちづくりを進めています。さらに、今年3月から民間企業の方とも協力をいたしまして、空港周辺で、太陽光発電の施設を設置いたしました。ここで発電した電気を、太陽光パネルをつけるのが難しい道後温泉本館や松山城のほか、発電施設の隣にある学校給食共同調理場にも電力を送っています。これからも国や県、民間企業さんをはじめといたしまして、市民の皆さんと一緒に温暖化対策を進めていきたいと考えていますので、皆様もご協力のほど、よろしく願いいたします。

【市長】 はい。これはもう、みんなで協力しないとできないことなんで、またご協力のほどよろしく願いします。

【⑫参加者】 若い世代に向けた松山市のPRについてお伺いします。私達は、松山市の魅力をもっと多くの人に知ってもらうために、インフルエンサーとコラボして、市を紹介する企画を行ってほしいと思っています。私達、中学生・高校生はテレビよりも、YouTubeやSNSなどインターネットを見る機会が多いです。そのため、影響力のある人がまちを紹介することで、若い世代にも、まちの魅力が広く伝わりやすくなると思います。実際に、VTuberグループが茨城県結城市を紹介する企画を行っているのを見て、若い世代にも、まちの魅力が広く伝わっていると感じました。松山市にも、観光地や食べ物など多くの魅力があるため、VTuberとコラボして、紹介してもらうことで県外の人にも興味を持ってもらえると思います。SNSで多くのフォロワーを持つインフルエンサーに松山市の魅力を発信してもらうことで、より多くの人に興味を持ってもらえるのではないかと考えました。

【市長】 はい、ありがとうございます。確かに、テレビあまり見ないような時代になってきましたね。松山市、様々なツールを使ったり、発信力のあるVTuberの方とかね、そういう方をお願いして、若い皆さんに松山の魅力を届けています。お願いします。令和6年度には、松山が舞台の劇場アニメ「がんばっていきまっしょい」がありましたけども、公開に合わせて、天宮ころろさん、VTuberですね、とコラボして、映画に出てくるおすすめスポットやご当地グルメなどを紹介する動画を作りました。やっぱり、反応いいですね。YouTubeにアップしたら、1週間で1万人以上の方が観てくれました。聖地巡りで、松山を訪れる観光客の増加にもつながっています。またこちらですね。昨年、インフルエンサーの ui

(うい) さんや碧羽 (あおば) さんに、松山市内を観光する様子をInstagramやTikTokで紹介してもらいました。特にuiさんが、松山城を紹介するInstagramは200万回以上も再生されまして、多くの方が関心を持ってくれました。いろんな情報発信の手段があると思うんですけども、やっぱりこういった形の発信も、すごく大事だになっていうのを感じていますので、これからも、こういった形で発信していきたいと思いますし、道後の100年に1回の大修理を乗り越えるために、飛鳥乃湯泉をつくらせていただいて、飛鳥乃湯泉の中庭に蜷川実花さんの作品を、こう展開、230枚、花の写真を展開しましたが、皆さんがこうやって写真撮ってくれて、インスタなどで発信してくれたのはすごく効果がありました。ですので、皆さんも情報発信者になれる時代なので、また松山の魅力を発信していただいたらと思います。よろしくお願いします。はい。

【市長】 はい、ありがとうございます。ごめんね、ちょっと途中おじさん怖かったかもしれないけれども、どうしてもこう、説明してもらおうと思って、ちょっと真剣になりました。みんなにお願いがあります。やっぱりこうやって人対人で話をするのが大事だと思うんですね。人対人で話をするのが大事だと思うんです。ちょっとインターネットの世界とか見ていて、やっぱり心配するのは匿名性なんですよ。匿名でコメントをされているというのが、あれ意図的にやろうと思ったらできますからね。匿名性のあるコメントっていうのは、10人の人が喋ってるように思わせて、実は1人の人が10回書いているとか。匿名性ってそうでしょ。名前言ってないから、そういうこともできますよね。それとインターネットだと、関心のあることばかり送られてくるから、思考がそっちの方に寄っちゃうんですね。それはちょっと怖いことだというふうに思っています。やっぱり、こうやって人対人でお話をするっていうことが基本だと思いますので、これからも皆さんも、人のつながりを大事にしていただけたらと思います。今日いろんな意見をいただけてよかったです。これからも皆さんが、次の世代の松山や愛媛や日本を背負っていく立場なので、今日いただいたご意見もまたしっかりと生かしていきたいと思いますので。はい。今日本当に日曜日の午後でしたけども、ありがとうございます。

—了—